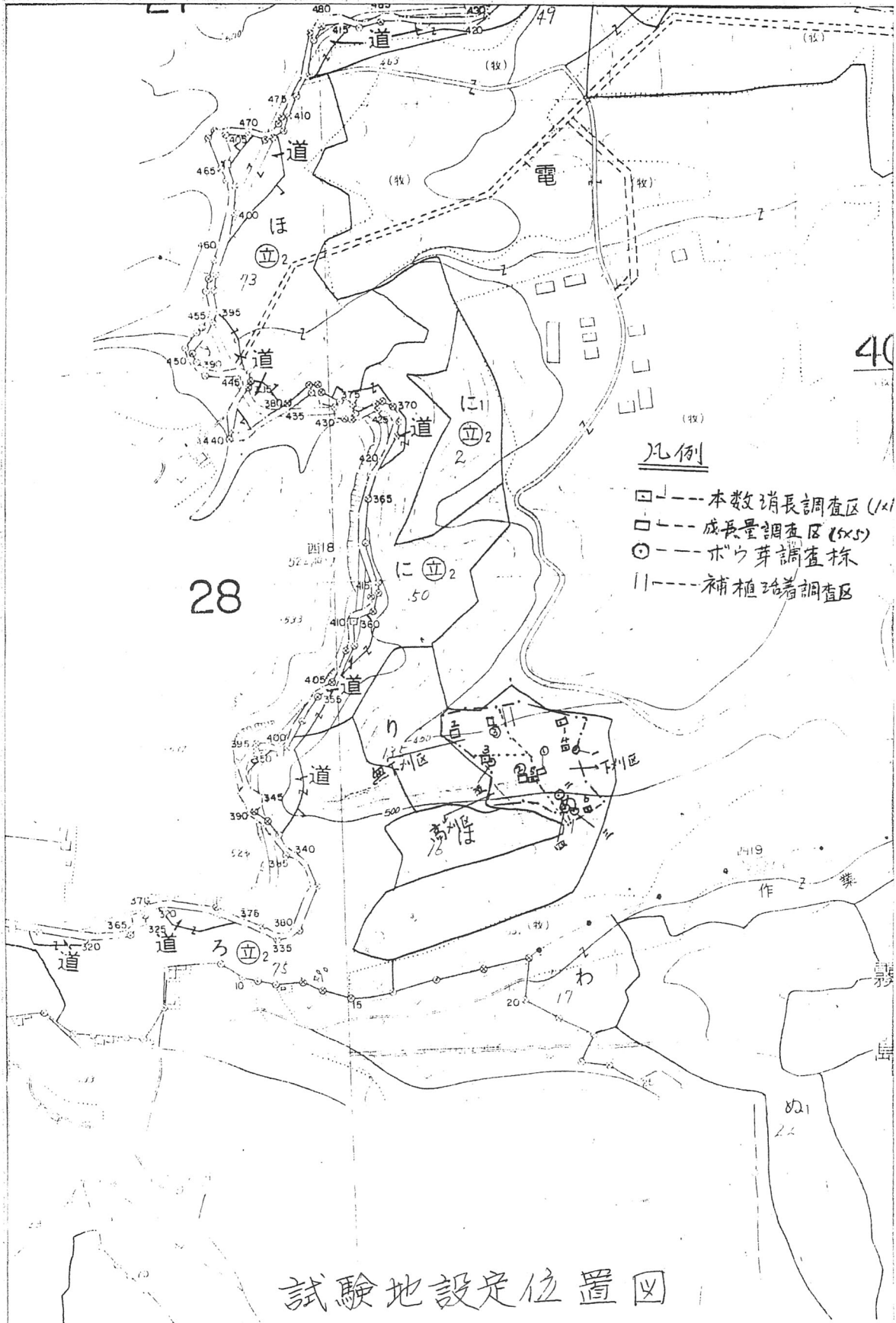


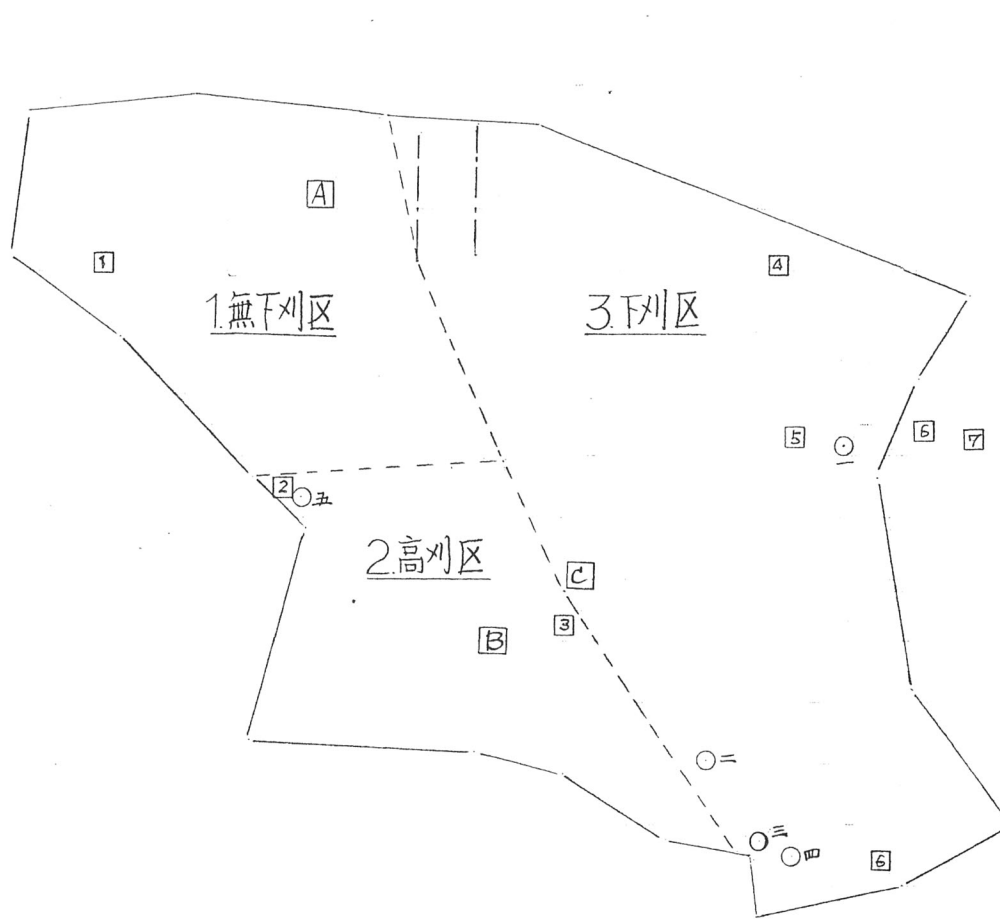
課 題	新規 継続	新規 継続	経常、特別別 目標との関連	経常 1-ア	担 当	開 発 箇 所	期 間	昭和 60年度 — 昭和 65年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額																																																																				
											物 件 費	調査用品		円	千円																																																																				
						造林部					役 務 費	現像、その他																																																																							
											人 件 費	(基 礎) 時	()		()																																																																				
											計	—			()																																																																				
目 的	天然林伐採跡地に更新する有用広葉樹(ケヤキ、クワ)を育成してこれらを主体とする有用広葉樹用材林に誘導する施策について検討する。																																																																																		
全 体 計 画		実 施 経 過		当 年 度 分																																																																															
				実 施 計 画			実 施 結 果			評 価 お よ び 着 目 計 画																																																																									
1. 試験地設定 2. 保育の方法 3. 調査事項 (1) 稚樹発生調査 (2) 稚樹減少原因調査 (3) 生長量調査 4. 密生箇所から疎生箇所への移植		1. 試験地の設定 (1) 場所 霧島国有林 40㍍ 林小班 (2) 面積 1.66 ha 2. 調査事項 (1) 稚樹消長調査 (2) 生長量調査		1. 試験地設定 (1) 下刈方法別区分 (2) 標準の明示 (3) 前生樹種の状況 2. 調査事項 (1) 稚樹発生調査 (2) 生長量調査 ア 樹 高 イ 樹 形 ウ 根 径 3. その他の調査			1. 試験地の設定 (1) 保育区(下刈、高刈、無下刈)設定 (2) 稚樹消長、萌芽、移植、生長量調査区設定明示。 2. 稚樹の消長 <table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <th colspan="2">調査時 (60.6)</th> <th colspan="2">60.11</th> </tr> <tr> <th>下刈</th> <th>高刈</th> <th>下刈</th> <th>高刈</th> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>200</td> <td>1</td> <td>204</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>31</td> <td>0</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>232</td> <td>1</td> <td>234</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>27</td> <td>2</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>高刈</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>72</td> <td>3</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>無下刈</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </table> 3. 生長量 (樹高) <table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <th colspan="2">設定時 (60.6)</th> <th colspan="2">60.11</th> </tr> <tr> <th>下刈</th> <th>高刈</th> <th>下刈</th> <th>高刈</th> </tr> <tr> <td>93</td> <td>119</td> <td>110</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>70</td> <td>120</td> <td>75</td> <td>145</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>0</td> <td>52</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>54</td> <td>—</td> <td>73</td> <td>—</td> </tr> </table> 4. 活着率 移植区(60.6) 23本の植付、枯損1本 活着率 96%			調査時 (60.6)		60.11		下刈	高刈	下刈	高刈	4	1	0	0	5	200	1	204	6	31	0	32	計	232	1	234	2	27	2	29	高刈	4	1	40	計	72	3	63	無下刈	1	0	1	計	1	0	1	設定時 (60.6)		60.11		下刈	高刈	下刈	高刈	93	119	110	150	70	120	75	145	30	0	52	0	54	—	73	—	1. 稚樹の消長 保育方法、樹種別、多量移植による効果(高刈) 下刈区で発生消長の相対関係が、高刈区では高刈区、無下刈区は発生、移植している。(高刈) 保育方法の相対効果は明らかでない。 2. 生長量 生長量 下刈>高刈>無下刈 移植区は高刈区と同程度と見られる。 生長量比較は、無下刈>移植>下刈>高刈と 無下刈が移植より良好 3. 活着率 6月移植の影響は少ない。					
調査時 (60.6)		60.11																																																																																	
下刈	高刈	下刈	高刈																																																																																
4	1	0	0																																																																																
5	200	1	204																																																																																
6	31	0	32																																																																																
計	232	1	234																																																																																
2	27	2	29																																																																																
高刈	4	1	40																																																																																
計	72	3	63																																																																																
無下刈	1	0	1																																																																																
計	1	0	1																																																																																
設定時 (60.6)		60.11																																																																																	
下刈	高刈	下刈	高刈																																																																																
93	119	110	150																																																																																
70	120	75	145																																																																																
30	0	52	0																																																																																
54	—	73	—																																																																																



試験地設定位置図

試驗設定圖

宇霧島国有林40畝林小班



凡例

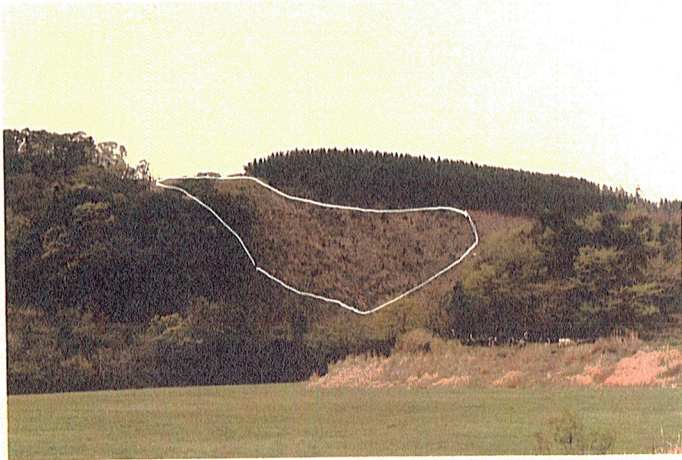
- ① ----- 稚樹消長区
- A ----- 生長量区
- ----- 萌芽木
- 移植区

状 况 写 真

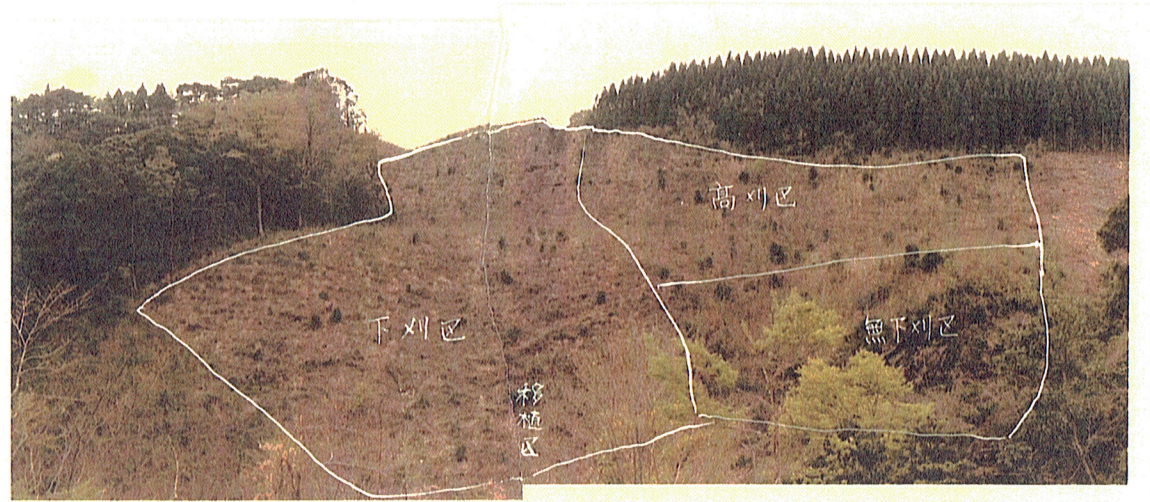
区分指示

都城 営林署

(様式6)



全景 (遠景)



全景 (近景)



生長量調査区

(左) 下刈区

(右) 高刈区



状 况 写 真

区 分 指 示

都城 営林署

(様 式 6)



← 下刈区



高刈区 →

(林況)



← 無下刈区



移植区 →

課 題	新規 継続	継続	経常・特別別	経常	担 当	開 発 箇 所	都 城 牛ノ脛 40㍓	期 間	昭和 60年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額						
			目標との関連	1-ア								円	千円									
	広葉樹用材林育成技術 {有用広葉樹(ケヤキ、クワ)天然更新について}																					
	物件費	調査用品																				
	役務費	現像、その他																				
人件費	(基礎 職) 時	(2.5)	5.0																			
計																						
目的	天然林伐採跡地に更新する有用広葉樹(ケヤキ、クワ)を育成して、これらを主体とする有用広葉樹用材林に誘導する施策について検討する。																					

全 体 計 画	実 施 経 過	当 年 度 分							
		実 施 計 画	実 施 結 果	評 価 お よ び 普 及 計 画					
1. 試験地設定 2. 保育の方法 3. 調査事項 (1) 稚樹発生調査 (2) 稚樹減少原因調査 (3) 生長量調査 4. 密生箇所から疎生箇所への移植	1. 試験地設定 (1) 保育区(下刈、高刈、無下刈)設定 (2) 稚樹消長、萌芽、移植、生長量調査区設定	1. 調査事項 (1) 稚樹の消長 (2) 生長量 (3) その他	1. 稚樹の消長		1. 稚樹の消長(ケヤキ) 下刈区では消滅のみで高刈区は2号ポイントに変化はなく、他は消滅した。無下刈区は変化が推移している。 (クワ) 保育方法の作用はほとんどみられない。 2. 生長量(ケヤキ) 稚樹>高刈>下刈(クワ) 下刈>高刈となりケヤキは終極区が良好である。 3. 生長率(ケヤキ) 稚樹>高刈>下刈(クワ) 下刈>高刈>下刈(クワ)でいずれもケヤキは稚樹区が良好である。				
			試験区	ポイント 番号		設定時(6.6)	6.1		
						ケヤキ (本)	クワ (本)	ケヤキ (本)	クワ (本)
			下 刈	4		1	0	0	0
				5		200	1	178	1
			高 刈	6		31	0	29	0
				計		232	1	207	1
			無 下 刈	2		27	2	27	1
				3		45	1	38	1
			無 下 刈	計		72	3	65	2
1	1	0		1	0				
計	1	0	1	0					

試験経過記録

15分 指示

都城 営林署

(様式4)~1

課題

広葉樹用材林育成技術
{有用広葉樹(ケヤキ・クワ)天然更新について}

2. 生長量(樹高)

試験区	プロット	設定時(60.6)		61.11	
		ケヤキ cm	クワ cm	ケヤキ cm	クワ cm
下刈	C	93	119	132	206
高刈	B	50	120	112	177
無下刈	A	50	0		—
移植	—	54	—	138	—

3. 活着率

60年度よりも13%と増減
1. 活着率は83%と定
つた。

3 活着率

移植区 83%

記載要諦

1. 調査結果及び考察を記入する
2. 状況写真は別紙添付する。

試験経過記録(その1)

都城 宮林署

課題

広葉樹用材林育成技術 [有用広葉樹(ケヤキ・クワ)天然更新について]

1. はじめに

天然林伐採跡地に更新する有用広葉樹(ケヤキ・クワ)を育成し、これらを主体とする有用広葉樹用材林に誘導する施策方法を確立する。

2. 試験地の概要

- (1) 場所 都城市 御池町 霧島国有林 40ぬ林小班
- (2) 地況 標高 600m 安山岩 BID-d型土壌
- (3) 林況 カシを主林木とした50年生の天然林で HA当 315㎡ 内 ケヤキ 22㎡

3. 試験の方法

- (1) 設定面積 1.66 HA
- (2) 設定時期 昭和60年6月
- (3) 試験区 ア. 稚樹の消長区 イ. 保育区
ウ. 移植区 エ. 萌芽区
- (4) 作業方法
ア. 稚樹の消長区 1~6プロット(1㎡) 試験区内
7~8 " " " 外
イ. 保育区 (1) 無刈区 (2) 高刈区
(地上高50cm全刈)
(3) 下刈区(毎年全刈)
(4) 生長量調査区 3ヶ所(1プロット5x5m)
ウ. 移植区 稚樹発生のない箇所への移植

エ. 萌芽区 調査伐根の選定

4. 調査事項

- (1) 稚樹の消長調査 調査区内の本数調査
- (2) 生長量調査 ア. 調査木50本を固定し、樹高
根元径(5mm以上となった時期)
イ. 移植区
稚樹区設定分
- (3) 活着率

5. 調査結果

各プロット内の調査を実施した。結果は表-1.2のとおり。
(表は提出済)

6. 考察

稚樹の状況を見ると、それぞれの試験区とも消滅のみで増加はみられなかった。これは伐採経過年数とともに、周囲の雑草木等が繁茂し、照度不足が原因かと思われます。